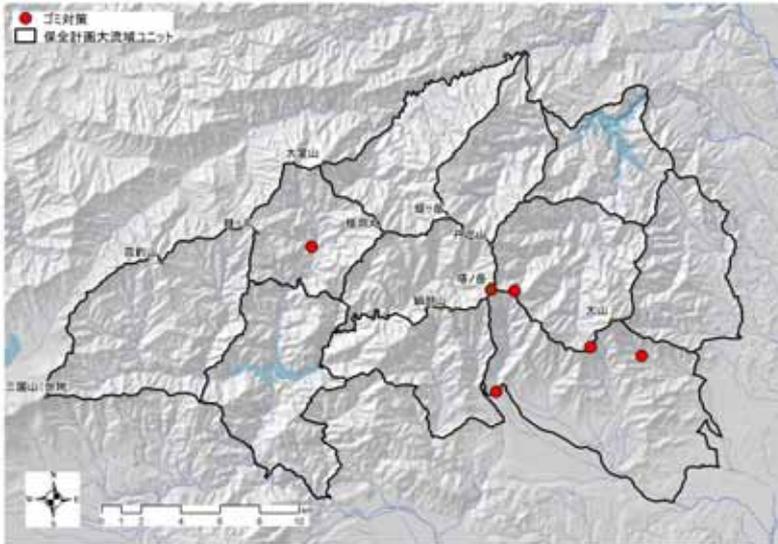


(17) ゴミ対策

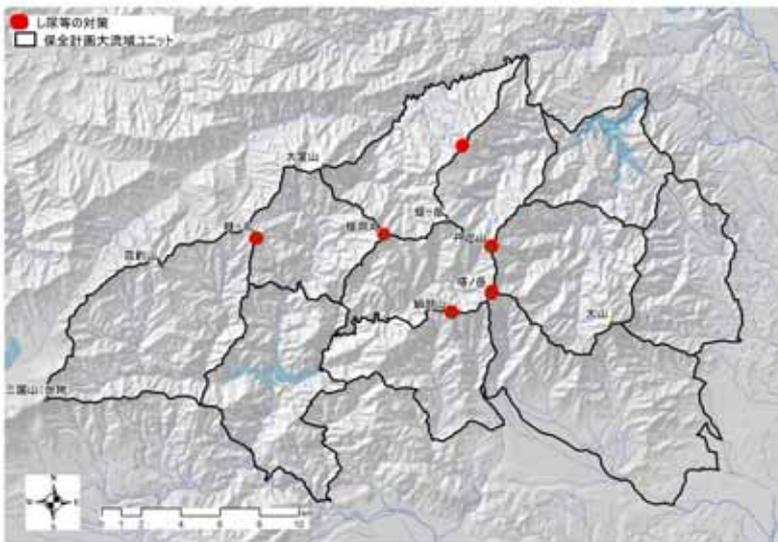
生物多様性に富んだ魅力ある自然公園を維持するため、ゴミ持ち帰り運動の周知・徹底を図るとともに、ボランティアや市町村と連携して登山道及びその周辺の投棄ゴミ対策に取り組んでいる。

丹沢大山クリーンピア21事業として1999年度から2005年度に、丹沢大山クリーンキャンペーン54回、クリーン指導員による清掃活動369回を実施している。また、ボランティア団体による清掃活動への支援として、収集した放置ゴミのヘリ運搬や物資提供、県自然公園指導員用のゴミ集積場所の設置を行った。



(18) し尿等の対策

し尿による環境悪化を防止するため、1998年度から2005年度までに、黍殻避難小屋、塔ノ岳山頂など7箇所に山岳公衆便所を整備した。また、2004年度からは、山岳トイレ技術実証試験として第三者による処理性能や環境保全効果についての検証を行っている。

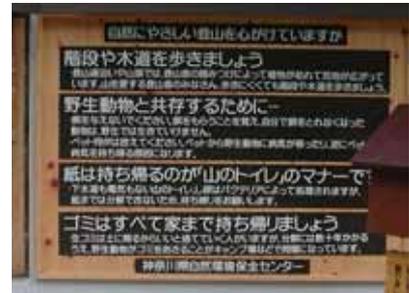
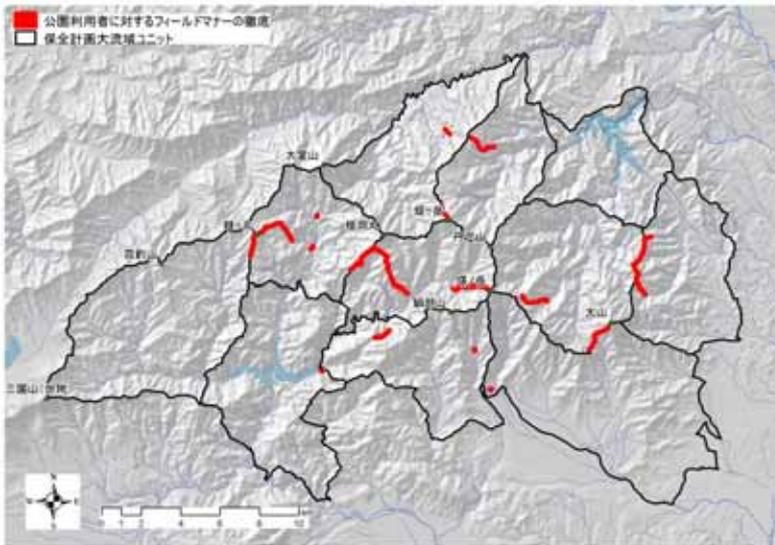


(19) キャンプ等の制限

水質汚濁の防止や溪流周辺の自然環境の保全を図るためのキャンプ自粛区域の設定や河原等への車両乗り入れ禁止措置等は、反対意見などから実施していないが、1999年の玄倉川における水難事故を契機に安全なキャンプについて啓発が進んだ。

(20) 公園利用者に対するフィールドマナーの徹底

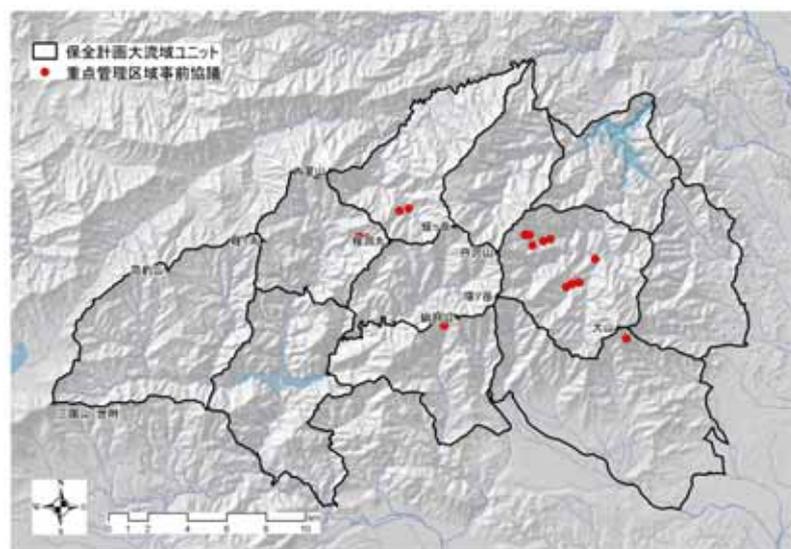
自然公園利用者のフィールドマナーの徹底を図るため、10,151回にのぼる自然公園指導員による巡回指導、県民参加による登山道補修活動、パンフレットの作成・配布、ビジターセンターにおける指導、フィールドマナー看板及び県民参加活動用の資器材倉庫の設置、橋梁補修など公園利用者の安全確保対策を実施した。



(21) 冷温帯樹林・暖温帯樹林の見直しやその他の保全手法の検討・実施

各種工事における自然環境への配慮を図るため、重点管理区域内で計画された県の工事を対象に重点管理区域における工事等の事前協議 27件を実施している。2001年度から2004年度に27件の協議を行った。

また、統合型、順応型、パートナーシップ型による新たな自然環境管理システムを検討し、2004年度から2箇年にわたり丹沢大山総合調査を実施している。



(22) 丹沢大山周辺地域の自然環境の調査 / (24) 県立丹沢大山自然公園の自然環境の調査

丹沢大山の自然環境問題の解決を図るため、2004年度から2箇年にわたり丹沢大山総合調査を実施している。

(24) 丹沢大山周辺地域の県立丹沢大山自然公園への編入の検討 / (25) 県立丹沢大山自然公園の国定公園への編入の検討

自然公園区域の拡大を検討した。